

[各分野から]

三重大学の先進的環境教育と持続可能な開発目標 (SDGs) ・ 脱炭素 (カーボンニュートラル) 社会創生†

朴 惠淑*1*2*3*4

元三重大学理事・副学長 (環境・国際・企画・評価・男女共同参画担当) *1・元三重大学人文学部教授*2・
元三重大学地域イノベーション学研究所教授*3・三重大学地域イノベーション学研究所客員教授*4

1. 三重大学の先進的環境教育と環境マネジメントシステム構築 (ISO14001 認証取得)

三重大学は、2007年11月19日の環境マネジメントシステム構築 (ISO14001 認証取得) の過程において、共通教育から各学部の専門教育に至る文理融合型の学際的環境教育が積極的に行われるようになった。共通教育と専門教育をつなぎ、総合大学としての利点を活かした三重大学モデルとなる「環境資格支援教育プログラム」によって、学生が環境に関する知識の探求や様々な資格取得が可能となり、社会との繋がりを体験できる大きな成果をあげることができた。

「環境資格支援教育プログラム」は、共通教育における学問横断的・基礎的環境教育を行い、専門教育において深掘できる環境教育プログラムであり、さらに、三重県及び県内の自治体、企業、団体での環境インターンシップを通じて、社会体験を積むことのできる有効なツールとなった。「環境資格支援教育プログラム」は、三重大学の教育目標の「生きる力」「考える力」「感じる力」「コミュニケーション力」を涵養する有効な教育プログラムとして、履修に必要な単位は、必須科目 (4単位)・選択必須科目 (環境インターンシップ) (1-2単位)・選択科目 (8単位) となり、単位取得者は、学長から「環境資格支援教育プログラム修了証」が授与され、環境カウンセラーや地球温暖化防止活動推進員などの環境に関わる様々な資格取得者として、社会と繋がりのできる優れた環境教育プログラムであった。

2005年4月に施行された環境配慮促進法によって国立大学法人は毎年環境報告書の作成・公表が義務付けられたことから、2006年度から「三重大学環境報告書～持続可能社会への大学の責任 (USR) を果たすために～」が発行され、「環境資格支援教育プログラム」の内容及び成果は、三重大学の環境教育の重要コンテンツとして公表されている。(三重大学環境報告書 2006～2016)

2. 三重大学の先進的環境教育と三重県の環境変革の成功事例

三重大学の共通教育及び各学部の専門教育で行われる講義型・実践型・現場型の重層的環境教育を通じて、学生は理論的背景のもと、現場での実践的経験を積むことで地域における環境問題について知ることができ、大学キャンパスをフィールドとする環境問題への解決策を見出し、地域社会を変える成功事例を生み出した。

三重大学が立地する三重県は、日本の高度経済成長を支えた一方で、四日市コンビナートからの大気汚染による四日市公害 (ぜんそく) によって人間の健康被害及び陸と海の生態系に甚大な被害を受けた地域であった。共通教育の四日市公害から学ぶ四日市学を通じて、学生たちに過去の負の教訓から学び、現在を知り、未来の正の資産に変えるために、環境・経済・社会の調和の取れた持続可能な社会創生のために分野横断的取組及び産官学民の連携が必要不可欠であることを学ばせた。(上野・朴編著 2004, 朴他 2005, 朴編 2007, 朴編 2012, 朴編著 2017)

三重大学の環境マネジメントシステム構築 (ISO14001 認証取得) に向けて結成された環境 ISO 学生委員会と「環境資格支援教育プログラム」の履修・修了者は、三重大学生協と共に、年間約 20 万枚のレジ袋が使われていた三重大学生協でのレジ袋ゼロを目指して、2007年12月1日から全学生と教職員にエコバッグの配布によるレジ袋のない運動を展開し、2008年1月1日から全国大学生協初のレジ袋有料化を実施し、レジ袋ゼロに成功した。その後、2009年10月1日の三重大学内のコンビニ (MINISTOP) の開店時において、レジ袋のない全国初のコンビニとなる成功事例に繋がった。三重大学生協とコンビニでのレジ袋ゼロの成功事例は、三重県の 29 の全市町においてレジ袋のない運動に発展でき、2012年4月1日には、三重県の 29 の全市町においてレジ袋有料化が実施され、約 95% のレジ袋削減の原動力となった。政府によるレジ袋有料化の全国実施が、2020年7月1日か

ら始まったことを踏まえ、三重大学の環境教育から始まった生活を変える環境活動は、三重県のみならず日本の身近な環境を変える大きなムーブメントとなった成功事例として高く評価できる。(三重大学環境報告書 2008～2020, 三重大学環境・SDGs 報告書 2021～2022)

3. 三重大学の先進的環境教育と持続可能な開発のための教育 (ESD) によるグローバル人材育成

三重大学モデルとなる環境教育の成果に伴い、三重大学は、文部科学省の質の高い大学教育推進プログラム (MEXT Good Practice; 2008 年度～2010 年度) に、「三重大ブランドの環境人材育成プログラム」が採択され、三重県だけでなく、日本・韓国・中国・タイ・インドネシア・オーストラリア・モンゴル・ロシア (極東) など、「アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアム」を構築し、グローバルとローカルを繋ぐグローバル人材育成に強力なリーダーシップを発揮するようになった。教職員及び学生の短期、中長期的国際交流の活性化により、三重大学の環境教育は、三重大学の基本理念となる「三重から世界へ地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」を可視化できる有効なツールとなり、大きな成果を挙げることができた。(文部科学省質の高い大学教育推進プログラム「三重大ブランドの環境人材育成プログラム」報告書 (MEXT Good Practice 2008～2010))

ユネスコ主導の持続可能な開発のための教育 (ESD) は、2002 年 8 月 26 日から 9 月 4 日に南アフリカのヨハネスブルグで開催された、持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD; ヨハネスブルグサミット) において、日本の提唱から議論され、持続可能な開発の原則・価値観・実践を教育のあらゆる側面に取り込むことが承認され、2005 年から実施されている。ESD は、持続可能な社会創生の担い手を育む教育として、環境・経済・社会の統合的な発展のため、多岐にわたる分野を持続可能な社会構築の観点から繋げ、総合的に取り組む教育であり、知識の伝達に止まらず、体験や体感を重視する参加型アプローチが求められている。朴 恵淑教授は、国際環境 NGO 代表の一人としてヨハネスブルグサミットに参加し、サイドイベントを通じて四日市公害から学ぶ四日市学及び三重大学の先進的環境教育について発表を行い、世界のアカデミア関係者へ積極的なアピールを行なった。(朴・野中著 2005)

三重大学は、2009 年 8 月 21 日に日本の総合大学初となるユネスコスクール (ASPnet) に登録し、持続可能な開発のための教育 (ESD) のトップランナーとして関わり、文部科学省のグローバル人材の育成に向けた ESD の

推進事業 (2014 年度～2016 年度) に、「三重大ブランドのユネスコスクールコンソーシアム事業」が採択された。持続可能な開発のための教育 (ESD) の 10 周年を記念して開催された 2014 年 11 月の「ESD に関するユネスコ世界会議」の名古屋国際会議場及び三重大学において「ESD in 三重 2014～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育 (ESD) ユース会議」を 2014 年 11 月 7 日～12 日に開催し、ESD の 10 年の成果を踏まえた今後の展望を行なった。参加者は、三重大学生だけでなく、韓国・中国・ベトナム・タイ・インドネシア・バングラデシュ・インド・トルコ・ウガンダ・ブラジル・アメリカ・フランスなど世界の 19 ヶ国から 210 名の学生が参加した大イベントとなり、三重大学の練習船の勢水丸を用いた伊勢湾の水質調査、伊勢湾最大級の松名瀬干潟での海岸清掃と生物多様性調査、海女との交流、林業体験、エコアイデアコンテストなどを行い、最終日は、名古屋国際会議場において「アジア・太平洋持続可能な開発のための教育 (ESD) ユース宣言」を和文と英文で採択し、ユネスコ関係者及び国連関係者、世界の教育界関係者へ伝え、三重大学の先進的環境教育としての持続可能な開発のための教育 (ESD) の「三重モデル」は、グローバル人材育成の成功事例として世界へ大きくアピールできた。(「ESD in 三重 2014」国際会議報告書 (2014), 三重大学環境報告書 2015)

4. 三重大学の先進的環境教育と科学的地域環境人材育成事業

三重大学は、学術的立場から地域の環境保全と活性化に寄与することが求められていることから文部科学省の「科学的地域環境人材育成 (SciLets)」事業に 2016 年度から採択され、実施している。オンライン環境リカレント教育システムを用いて、三重大学の学生、一般社会人、企業、自治体の環境担当者などを対象として、地域で活躍できる科学的地域環境人材 (アナリスト) 及び高度な環境人材 (エキスパート) の育成を行う仕組みである。基本的に 10 の必須科目と 4 つ以上の選択科目を受講し、それぞれの理解度確認試験に合格して環境教育要件が満たされるとアナリストの資格が認定され、環境共同研究などの環境実践要件が認められるとエキスパートの資格が認定される。(三重大学環境報告書 2016～2020, 三重大学環境・SDGs 報告書 2023)

5. 三重大学の先進的環境教育と持続可能な開発目標 (SDGs)・脱炭素 (カーボンニュートラル) 社会創生

持続可能な開発目標 (SDGs) は、2015 年 9 月 25 日の国連持続可能な開発サミットにおいて採択され、2030 年

まで世界のすべての国が取り組む国際的目標である。SDGs の究極的目標である「誰一人取り残さない」ために環境・経済・社会との調和の取れた持続可能な地域創生を図る 17 の目標と 169 のターゲットからなる人類の共同目標であり、次世代人材育成のプラットフォームとなる。

SDGs の目標 4 は、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」と教育に特化した目標で、10 のターゲットからなる。ターゲット 4.7 では、2030 年までに持続可能な開発のための教育 (ESD) 及び持続可能なライフスタイル、人権、男女平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解教育を通じて、全ての学習者が持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるように位置付けられている。教育は全ての SDGs の基礎であり、全ての SDGs が教育に期待することが分かる。SDGs の 17 の全ての目標達成のためには次世代人材育成が最重要課題であり、ESD-SDGs の連携が必要不可欠となる。三重大学の先進的環境教育の成果を活かした「三重モデル」となる環境教育及び ESD-SDGs 教育のさらなる発展的展開を行い、世界のトップランナーとして三重大学の役割を果たすことが求められている。(朴他共著 2019, 朴・矢野編 2021)

三重大学は、2021 年 4 月 1 日に、これまでの環境方針を環境・SDGs 方針に変えている。すべての教職員と学生が持続可能な開発目標 (SDGs) の趣旨を理解し、環境先進大学としての取り組みをさらに強化し、環境・SDGs のプラットフォーム機能を築きあげ、脱炭素 (カーボンニュートラル) 社会の形成に向けた環境の諸問題を地域と共に探究し、新しいコミュニティづくりの一翼を担う地方共創大学として、持続可能な社会の構築に寄与する決意を表している。

三重大学は、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを活性化することをめざして三重県が 2021 年 11 月に制定した「三重県 SDGs 推進パートナー登録制度」に、三重県唯一の高等教育機関として 2022 年 1 月 31 日に登録された。三重大学は、地域共創大学として 2030 年の SDGs 及び 2050 年の脱炭素 (カーボンニュートラル) 社会創生に向けて教育・研究・社会貢献を通じた地域のプラットフォームとしての役割を果たすだけでなく、世界のステークホルダーとのグローバルパートナーシップによる次世代人材育成のトップランナーとして大学の社会的責任 (USR) を果たす強力なターニングポイントとなった。(三重大学環境・SDGs 報告書 2022)

2021 年度から 2023 年度における教養教育のカリキュラムの中で国際環境教育研究センター開講の 5 つの科目

は、環境・SDGs 教育に大きな成果をあげている。特に、2022 年度から開講している環境科学 2 (SDGs と脱炭素社会) は、三重大学の環境・SDGs 方針を達成するために、近年の地球温暖化に起因する気候危機に対処し、脱炭素 (カーボンニュートラル) 社会創生に貢献するために、学問横断的分野の多数の教員によるオムニバス形式による授業で、国内外の動向を踏まえ、座学・討論・現地調査など多様な内容からなるカリキュラムとして、グローバル人材育成の発展的展開が大きく期待できる。(三重大学環境・SDGs 報告書 2021~2023)

参考文献

- 三重大学『三重大学環境報告書 2006~2020』
 三重大学『三重大学環境・SDGs 報告書 2021~2023』
 上野達彦・朴 恵淑編著 (2004)『快適環境都市をめざして—四日市公害からの提言』中央法規。
 朴 恵淑他著 (2005)『四日市学—未来を開く環境学へ』風媒社。
 朴 恵淑編 (2007)『四日市学講義』風媒社。
 朴 恵淑編 (2012)『四日市公害の過去・現在・未来を問う「四日市学」の挑戦』風媒社。
 朴 恵淑編著 (2017)『三重学』風媒社。
 三重大学『三重ブランドの環境人材育成プログラム報告書 (MEXT Good Practice 2008~2010)』
 三重大学『「ESD in 三重 2014」国際会議報告書』
 朴 恵淑・野中健一著 (2005)『環境地理学の視座<自然と人間>関係学をめざして』昭和堂。
 朴 恵淑他共著 (2019)『環境共生の歩み~四日市公害からの再生・地球環境問題・SDGs』明石書店。
 朴 恵淑・矢野竹男編 (2021)『持続可能な三重創生と SDGs 経営』風媒社。

† PARK HyeSook Ph.D.*1*2*3*4: Mie University's Advanced Environmental Education for Sustainable Development Goals (SDGs) and Decarbonized Society

*1 Former Executive Vice President of Mie University (Environment, International Exchange, Planning, Evaluation and Gender Equality)

*2 Former Professor, Humanities, Law and Economics, Mie University

*3 Former Professor, Graduate School of Regional Innovation Studies, Mie University

*4 Visiting Professor, Graduate School of Regional Innovation Studies, Mie University, 1577 Kurimamachiyachou, Tsu, Mie, 514-8507, Japan